

様式1 令和5年度 清瀬市立清瀬第二中学校 学校評価計画						
学校の教育目標		愛情 より豊かな 心をつちかう 勤労 よりよくはたらき 責任をはたす きたえる	学力 より深く 自ら学ぶ 健康 よりたくましく 心身を	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動		
目指す学校像(ビジョン)		【目指す学校像】 「笑顔と あいさつ そして ありがとう」が溢れる清瀬二中 【目指す児童・生徒像】 「自分で考えて行動する力」を持つ生徒 【目指す教師像】 「生徒が主役であることを大切にし、感謝を忘れず、教師であることを誇りに思う教員」			・生涯学び続ける力・人間性の育成 ・ふるさと清瀬を誇りにし、持続発展の主体となる力 ・生きて働く知識・技能の育成 ・考える力、判断する力、表現する力 ・育てたい4つの心「感謝する心」「自他の発言、意見を大切にす る心」「共に学ぶ心」「社会の中で活きている意識」 ・学校支援本部との連携	
前年度までの学校経営上の成果と課題						
・学力向上について、授業改善の取組が生徒の思考力向上につながた。今後は、生徒が考えを示し、話し合う活動においてクロームブックの活用を図ることで、生徒の思考力・表現力の向上を図っていくことが課題である。 ・豊かな心の育成について、生徒は落ち着いて学校生活を送ることができているが、不登校の生徒数は多く、いじめ調査や学級適応感尺度等を活用し、生徒一人一人の心に寄り添った対応や対策をさらにすすめることが課題である。 ・特別支援教育の充実について外部のアドバイザーによる巡回相談や特別支援学校の地域コーディネーターによる支援・研修会を計画的に行うことができた。今年度は、特別支援学級開級にあたり、教員研修をさらに充実させていくこと						
柱	中期経営目標				短期経営目標	具体的方策
確かな学力の向上	授業の質的向上を図り、生徒の他者と協力して学ぶ姿勢や思考力・判断力・表現力を育てる。	授業を要として他の生徒と協力して学びに向かう姿勢や課題解決のために考え抜く力、自分が学んだことを活用、表現する能力を育てる。	課題解決のために個人で考える時間をとり、話し合い活動等により自分が学んだことや考えたことを活用、表現する場面を設ける。	4 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが90%以上	4 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが90%以上	
				3 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが80%以上	3 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが80%以上	
				2 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが60%以上	2 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが50%以上	
				1 教員の授業評価が4段階評価でA・Bが60%未満	1 生徒の授業評価が4段階評価でA・Bが50%未満	
	GIGAスクール構想に基づき、ICTの活用に取り組む中で、主体的、対話的で深い学びの実現を図る。	ICT機器の校内研修会等により、クロームブック等の活用方法について学び、授業で実践する。		4 全教科での実施	4 生徒の評価が4段階評価でA・Bが90%以上	
				3 実施率80%以上	3 生徒の評価が4段階評価でA・Bが80%以上	
				2 実施率50%以上	2 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%以上	
				1 実施率50%未満	1 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%未満	
豊かな心の育成	生徒の自他を大切にすることや自己実現へ向けて努力する態度の育成を図る。	行事や学級活動に主体的に取り組ませることで、達成感を味わわせ、自己肯定感や自尊感情を高める。	学校行事や学年行事、学級活動、委員会活動、授業に生徒が主体的に取り組むような指導計画を立て、実践する。	4 教職員の取り組み評価がA・Bが90%以上	4 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが90%以上	
				3 教職員の取り組み評価がA・Bが80%以上	3 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが80%以上	
				2 教職員の取り組み評価がA・Bが60%以上	2 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが50%以上	
				1 教職員の取り組み評価がA・Bが60%未満	1 生徒の自己評価が4段階評価でA・Bが50%未満	
	いじめがなく、生徒一人一人が大切にされる学校・学年・学級作りを目指す。		いじめ調査や学級環境適応尺度調査を実施して、学級経営や面談に活用する。	4 調査と面談を合計6回以上	4 生徒の学校生活評価A・B90%以上	
				3 調査と面談を合計5回	3 生徒の学校生活評価A・B80%以上	
				2 調査と面談を合計4回	2 生徒の学校生活評価A・B50%以上	
				1 調査と面談を合計3回以下	1 生徒の学校生活評価A・B50%未満	
健やかな体の育成	運動を楽しみ、健全な食生活を意識して、健康的に生活する態度を養うとともに、健康な心身の成長に関する意識を高める。	体育の授業や体育行事、部活動により、生徒の健康的に生活する態度を育む。	体育の授業等において運動することの楽しみや自己の健康について指導する。	4 教職員の取り組み評価がA	4 生徒の評価が4段階評価でA・Bが90%以上	
				3 教職員の取り組み評価がB	3 生徒の評価が4段階評価でA・Bが80%以上	
				2 教職員の取り組み評価がC	2 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%以上	
				1 教職員の取り組み評価がD	1 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%未満	
	正しい生活のリズムについて指導し、食育を推進して、健康的に生活するための知識を身に付けさせる。		食育に係る学習を計画するとともに、食育だよりや保健だより等を通して健康に関する情報を発信する。また生徒が自分の生活を見直す活動を実施する。	4 授業や取組の回数が合計10回以上	4 生徒の評価が4段階評価でA・Bが90%以上	
				3 授業や取組の回数が合計8回以上	3 生徒の評価が4段階評価でA・Bが80%以上	
				2 授業や取組の回数が合計5回以上	2 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%以上	
				1 授業や取組の回数が合計5回未満	1 生徒の評価が4段階評価でA・Bが50%未満	
特別支援教育の充実	特別な支援を必要とする生徒への支援の充実を図る。	特別な支援を必要とする生徒に関する情報を共有して指導にあたる。	特別支援委員会を中心とした情報交換や指導方法等に係る検討会を定期的に実施する。	4 ほぼ毎週実施	4 教職員の評価が4段階評価でA・Bが90%以上	
				3 ほぼ隔週ごとに実施	3 教職員の評価が4段階評価でA・Bが80%以上	
				2 月に1回程度実施	2 教職員の評価が4段階評価でA・Bが50%以上	
				1 隔月ごとに実施	1 教職員の評価が4段階評価でA・Bが50%未満	
	特別な支援を必要とする生徒への支援方法や来年度開設する特別支援学級についての研修を実施する。		特別支援委員会を中心とした外部のアドバイザーによるカンファレンスや特別支援学級や、インクルーシブ教育に関する研修会等を実施する。	4 年15回以上の実施	4 保護者の評価が4段階評価でA・Bが90%以上	
				3 年10回以上の実施	3 保護者の評価が4段階評価でA・Bが80%以上	
				2 年5回以上の実施	2 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%以上	
				1 年5回未満の実施	1 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%未満	
本校の特色	開かれた学校づくりと家庭・地域との連携を推進する。	学校支援本部と連携して様々な活動を展開するとともに、外部人材の活用を図る。	学生や保護者・地域の方と連携してボランティア活動を実施する。	4 地域の人材活用の取組を年8回以上実施	4 保護者の評価が4段階評価でA・Bが90%以上	
				3 地域の人材活用の取組を年6回実施	3 保護者の評価が4段階評価でA・Bが80%以上	
				2 地域の人材活用の取組を年4回実施	2 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%以上	
				1 地域の人材活用の取組を年2回実施	1 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%未満	
	学校の情報を地域・保護者に積極的に発信する。		学校だより、学年だより、ホームページ等を活用して情報を発信する。	4 学校・学年便り発行計60号以上、HPの更新毎週2回以上	4 保護者の評価が4段階評価でA・Bが90%以上	
				3 学校・学年便り発行計50号以上、HPの更新毎週1回以上	3 保護者の評価が4段階評価でA・Bが80%以上	
				2 学校・学年便り発行計40号以上、HPの更新隔週1回以上	2 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%以上	
				1 学校・学年便り発行計40号以下、HPの更新隔週1回以下	1 保護者の評価が4段階評価でA・Bが50%未満	